

大会宣言

小泉内閣が2000年4月発足してから丸4年が経ちました。

私たちN関労にとっては、この間の闘いはまさに「小泉構造改革」との闘いでした。「作用があれば反作用がある。」N関労の結成はNTT11万人合理化の中での反作用でした。

毎年3万人を超す「自殺者」はリストラに継ぐリストラの結果として現れていますし、私たち一人ひとりが、いつそこに追い込まれても不思議でない状況です。実際NTTでも「自殺者」が発生していますし、精神疾患にて退職を余儀なくされた仲間もいました。

世界の動きも3年前の同時多発テロをきっかけにイラク戦争が勃発、小泉内閣もイラクへの派兵を強行しました。そして、多くの血が流され日本人もその犠牲になりました。その背景には、石油資源をめぐる経済問題が隠されています。

また中国への進出も大変なスピードで市場拡大が進んでいます。特に日本独占資本は生産と消費を中国市場へと求めています。資本が資本として生きるすべを「資本主義の法則」として映し出しているのが現在の世界及び国内情勢だといえます。

「イラク戦争」「教育の反動化」「年金制度の改悪」「労基法改悪」など360度からの攻撃がされ、その中心に「憲法改悪」があります。

このような情勢のなかで、私たちの反撃も始まっています。そのひとつに、今年の満了型選択者に対し西日本から盛岡への配転という脅かしがありました。正確にメモをしていた結果、団体交渉での追及によって現地現職に留まるという成果を得ることができました。

NTTから見れば小さな労働組合かもしれませんが、大会報告にある通りこれまでと違う労働組合という印象を与えています。闘う労働組合、それは一人ひとりが闘う武器を手にする努力がされているということです。

木下さんの闘いは、具体的な証拠を残すことの大切さを私たちに示してきました。今回の大会でも、闘えば必ず成果があることが明らかになりました。具体的な要求の獲得と、組合員の増加と新たな支部結成でした。

しかしまだまだ多くの課題があります。その課題を成果に繋げるために、N関労に結集する組合員と仲間たちは職場を超え地域を超えて支えあい、学び合いながら闘い続けます。以上、宣言する。

2004年6月5日

NTT 関連労働組合協議会第4回定期大会